

28年度 多摩借行会総会

平成28年度多摩借行会（森繁弘会長陸士60）の総会・防衛講話・懇親会は、台風の間を縫うように、10月1日（土）、陸自小平学校の全面的な協力を得て開催し、参加者は陸士・陸幼関係16名、陸自OB14名、賛助会員1名、学校関係者4名の合計35名であった。

第1部の総会で、森会長は、わが国周辺の厳しい安全保障環境や社会環境及び自然環境の悪化に対する野党の甘い認識を批判し、憲法改正の必要性を強調された。また、会務報告と会計報告は、異議なく承認された。

第2部の防衛講話は、小平学校長の工藤天彦陸将補を講師に迎え、情報分野の専門家の立場から、北朝鮮・ロシア・中国の最近の動向について、公開資料の具体的な分析・評価を分かりやすく説明し

ていただいた。その要点は次のとおり。

北朝鮮は、核・弾道ミサイルの開発に重点指向しているが、成功の確率はまだ低い。従来は隠蔽して恐怖感を煽っていたが、最近の使用可能なことを見せつける示威に方針を変更したようである。

ロシアは、アジア・太平洋への影響力の復活に努力しており、新兵器も逐次導入しているので、警戒を要する。

中国は、「偉大な中華民族の復興」を掲げる習近平氏が、従来の7大軍区を再編して5大戦区に改編し、「戦える軍隊」を目指して、戦区司令部（統合軍）と軍種司令部（陸・海・空・ロケット軍）を置き、「共産党中央と中央軍事委員会の指揮に断固として服従しなければならぬ」と訓示している。

また、「呼べば集まり、集まれば戦い、戦えば勝つ軍隊」をモットーとし、「米中軍事交流」で技術と運用の両面にわたる米軍に追隨する努力を重ねるとともに、「中露海上協力演習」を通じてレベル・アップに励んでいる。

第3部の懇親会では、最高齢の清田泰臣氏陸士54に乾杯の音頭をお願いした。95歳とは思えないお元氣なお姿は、居合道（10段範士）の賜物とのこと。当日も道場で指導の予定があるという充実した規則正しい生活態度には学ぶべき点が多いという声も聞かれた。

旧軍とか自衛隊の区分に関係なく和気

藹々と語り合っているうちに、予定時間があつという間に過ぎ、軍歌・隊歌演奏に移ると、人が変わったように一段と元氣が溢れ、時折、隅の方から大きな声で「合いの手」が入る状況。「血潮と交えし」、「空の神兵」、「元寇」、「この国は」と続き、最後は全員起立して「陸軍士官学校校歌」の斉唱で幕を閉じた。名残は尽きなかったが、最も若い空自OBの小宮一之氏空自95の万歳三唱で締め括り、再会を約して解散した。

（文責：森 清勇 陸自62）

